

糖尿病だより



2013年 8月
No.28

～薬剤科より～ のみ薬の種類と特徴について

糖尿病の治療に用いるのみ薬は、作用の違いから大きく3つに分けられます。**インスリンの分泌を促進する薬、インスリンの働きを改善する薬、糖の吸収を遅らせる薬**があります。患者さんの血糖値や、インスリンの分泌量、インスリンの働き方によって薬が決められます。

★ インスリンの分泌を促進する薬

すい臓に働く

● スルフォニル尿素 (SU) 薬

商品名：アマリール、オイグルコン、グリミクロンなど

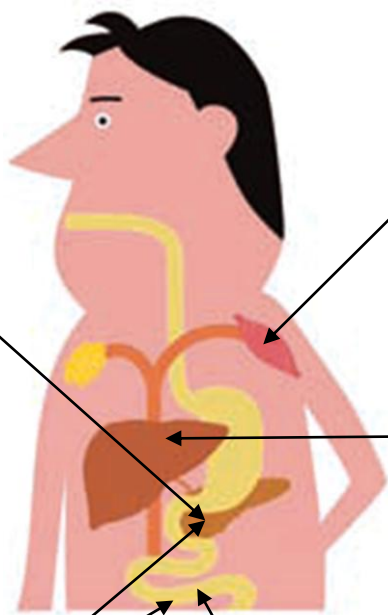
● 速効型インスリン分泌促進薬

商品名：グルファスト、スターシスなど
すい臓のβ細胞に働きかけて、インスリン分泌をうながすことによって血糖値を下げます。

インクレチンを介して すい臓に働く

● DPP-4 阻害薬

商品名：グラクティブ、エクアなど
インスリンの分泌をうながすホルモンであるインクレチンの働きを高めます。インクレチンは、食事をとると小腸から分泌されます。



筋肉などに働く

● チアソリジン薬

商品名：アクトスなど

脂肪や筋肉などでインスリンの効きをよくして、血液中のブドウ糖の利用を高めて血糖値を下げます。

肝臓などに働く

● ビグアナイド薬

商品名：メット、メトグルコなど
肝臓にはたらきかけて、ブドウ糖の放出を抑制したり、筋肉や脂肪細胞に働きかけて、ブドウ糖の取り込みを促進します。

★ 糖の吸収を遅らせる薬

腸で働く

● α-グルコシダーゼ阻害薬

商品名：ベイスン、グルコバイ、セイブルなど

小腸でのブドウ糖の分解・吸収を遅らせて、食後の急激な血糖値の上昇を抑えます。

* お薬と上手に付き合うために *

主治医から指示された薬の名前・1回の服用量・服用時間は必ず覚えましょう。そして、指示された量と時間を必ず守りましょう。

いつもと違う不快な症状があれば、主治医と相談しましょう！

糖尿病のコントロールには食事・運動などの生活習慣を変えることと、その継続が欠かせません。皆様の糖尿病療養に役立つ情報をこの「糖尿病だより」で発信していきます。

糖尿病療養指導スタッフ一同

国立病院機構 姫路医療センター

